

首都大学東京 健康福祉学部@荒川キャンパス

～あなたも模擬授業に参加し、荒川キャンパスの雰囲気を感じてみませんか～

2018. **8.7** (火)

当日、10時から体育館にて整理券を配布します。
 ※整理券がない場合は、入場できませんので、ご注意ください。

看護
 学科

身体から出る音に興味がありませんか？

各回定員
 80名

～心臓の音を聴いてみよう～

人の生命にかかわる看護にとって、解剖・生理学的メカニズムを知り、それに基づいて全身状態をしっかり把握していくことはとても重要なことです。まず患者さんから身体の状態を問い（問診）、十分に視て（視診）、触れて（触診）、打って戻ってくる音（打診）から全身の状態を把握していきますが、もう一つ重要な方法が、身体から出ている音を聴き判断していく「聴診」です。私たちは普段の生活で意識することは殆どありませんが、24時間身体から様々な音を出しており、実はその音を聞き分けることによって身体の状態をある程度判断することができます。皆さんも看護師や医師の方に聴診器を当てられた経験があると思いますが、何の音を聞いて、どんな判断をしているのか知っていましたか？こうした音には気道や肺に空気が流れる音（呼吸音）や血液が流れる音（血流音）、腸が動く音（蠕動音）など様々な音がありますが、今回は心臓から出される「心音」に着目し、その音が聞こえるメカニズムを理解した上で、実際に「心臓の音」を聴く体験して頂きたいと思います。

看護学科の魅力

看護とは、人の生命に寄り添いながら闘病を支えたり、場合によっては尊厳ある死に資する本当に崇高で、やり甲斐のある専門職です。しかしその実践において必要なのは、人に対する深い愛情と興味だけでなく、根拠に基づいた実践を行うための科学的思考も極めて重要です。そういった意味で看護は、非常に学術性が広い学問と言えるでしょう。

ひとこと

本看護学科は、東京の川沿いののどかなところにあるせいか、学生同士はもちろんのこと、教員と学生間においても非常にアットホームな学科です。また本学には大学病院はありませんが、逆に都内に散在している様々な都立病院で実習が行えるのも魅力の一つです。

時間 ①11:30～12:30 ②13:20～14:20

場所 校舎棟3階336-1

担当教員 習田 明裕 教授 他4名

理学療法
 学科

筋力を測るー理学療法士の見方・考え方

各回定員
 80名

理学療法士が日常よく接する身体機能障害のひとつに「筋力低下」があります。筋力が低下しているかどうかを判断するにはまず①筋力を測る必要があります。そして②低下の原因を調べるとともに、③回復させる方法を考えなければなりません。「筋力低下」は④日常生活にもさまざまな影響を及ぼしますのでその評価も必要です。今回の模擬授業では①～④に関する基本技術の一端を紹介しながら、理学療法士の見方・考え方についてお話させていただきます。

理学療法学科の魅力

座る、立つ、歩く、走る、投げる、といった身体動作の専門家として理学療法士はいろいろな人に関わります。医療人として病院などでこうした動作が障害された患者さんに関わることはもちろんですが、最近ではスポーツ現場で選手にけがの予防法を指導したり、保健センターなどで高齢者に転倒・骨折予防を指導したり、といった予防への関りも増えています。将来、理学療法士として活躍するためには学生時代にしっかりと土台を築くことが必要です。そのため本学では幅広い専門的知識の獲得と、科学に裏付けされた実践的技術の指導に重点を置いた教育を行っています。

ひとこと

本学は、世界各地の大学と国際的な交流を進めています。好奇心にあふれ、世界を視野に、様々な事柄に前向きに取り組める人を求めています。

時間 ①12:15～13:15 ②14:40～15:40

場所 校舎棟1階164-1

担当教員 浅川 康吉 教授

各回定員
50名

**作業療法
学科**

“心と体を同時にみる” 心理と生活の専門職” !
 - 作業療法カウンセリングで自分の（受験）生活を診断しましょう -

21世紀は心の世紀です。身体は健康なのに何となく心に元気がない。そんな時に、ちょっと無理をしても運動をすると心がスカッとする時があります。また、身体が病んだり障害をもってしまったとき、心が元気になれば想像以上に身体の活動ができたりします。作業療法は、様々な活動やカウンセリングを通じて、うつ病などの神経症や精神障害（統合失調症）、身体障害（脳卒中、頸・脊髄損傷、整形外科疾患等）、高齢期障害、認知症、発達障害の方々の“できる事”を増やし、限りある人生を幸せに生きるための意欲を引き出します。そうです、われわれ作業療法士とは、生活（活動）と心理の専門職です。

**“自分の生活は自分自身が主役”
を援助する作業療法士**

つまり、
障害をもった患者さんの
心理を安定させながら
行動の変化を促し、
生活環境と役割を維持・改善
させる“作業療法士”は
生活（活動）と心理の専門職！



作業療法学科の魅力

本学・作業療法学科は国内でもトップクラスの教育と研究レベルを誇ります。たんに資格を取るための学科ではありません。学生の将来への可能性を無限に引き出すサポート体制がここに存在します。海外有名大学との提携や海外留学のしやすさ、そしてアジアから多数の留学生（大学院）を迎え入れて、作業療法研究の分野でも群を抜いた存在です。毎年、学部を卒業する学生の何割かはそのまま本学大学院に進学しています。将来、病院・施設での臨床勤務だけでなく、研究者や教育者として活躍したり、行政・官公庁や一般企業などに勤務する道もあります。もちろん、それらの基盤は作業療法です。患者や障害（児）者だけではなく、一般の人々の健康と生活（作業）を支えるための技術と専門性がそこで大いに活かされる事でしょう。

ひとこと

再来年度から、多専門職連携教育（IPE）が本格的に開始されます。他の専門学生と一緒に演習を行う機会が増えます。本学のIPEは、国内と海外の提携校との連携による日本で唯一のユニークな連携教育のシステムです。ここでも、短期留学の機会があり、英国やスウェーデンの大学に2週間滞在します。こうした体験は、他大学にはない、本学だけの優れた教育システムです。

- 時間** ①11:20~12:20 ②14:00~15:00 **場所** 校舎棟 4階 463
- 担当教員** 大嶋 伸雄 教授

各回定員
80名

**放射線
学科**

放射線医学・診療を支えてくれませんか!
“石”で放射線を測る? ~先端医療への応用~

画像診断は、CT や MRI を中心に、近年の医学の発展の中で最も進歩した領域の一つです。命に関わる疾患で画像診断が行われないことはまず考えられません。その高度に進歩した領域を支えるのが、放射線科医であり、診療放射線技師であり、看護師です。本講演では、放射線医学の実際についてその概要を紹介します。是非、皆さんには、最新医学を実践するチーム医療の仲間になって頂けることを期待しています。(古川)
 私は、「古典的な物理現象を先端医療に！」をモットーに、古くから知られている天然岩石や鉱物の物理特性を利用した放射線検出器の開発に携わっております。当日は、動画にて“岩石が発する不思議な光”をご覧いただき、この光を利用した最新の放射線イメージングデバイスについてご紹介いたします。(真正)

放射線学科の魅力

放射線学科では放射線技術学の習得とともに機器のデジタル化に対応した情報処理能力の高い技師の育成を目指しており、そのためのカリキュラムも他大学と比べて充実しています。所有する放射線装置は、診断領域ではX線CT装置をはじめとする10台以上のX線撮影装置とMRI装置、核医学領域ではSPECT/CT装置、放射線治療領域では高エネルギー発生装置などが整っています。また、首都圏に点在する国や都県の大規模放射線研究施設の利用や研究・教育の相互協力体制が特に充実しています。教員と共に多くの学生が、この充実した研究・教育環境を利用して最先端の研究に取り組み国内外の学会にて発表を行っています。

ひとこと

教育・研究環境が整っていることはもちろんのこと、業界屈指の就職率を誇る本学科で、診療放射線技師を目指してみませんか?大学院進学率も高く、高度医療専門病院の放射線専門技師や医学物理士、そして放射線科学の発展に寄与する研究者・教育者のリーダーを目指す多くの学生が頑張っております。

- 時間** ①12:30~13:30 ②14:50~15:50 **場所** 校舎棟 1階 182
- 担当教員** 古川 颯 教授 真正 浄光 准教授